

今こそオンライン教育

新型コロナ 休校で注目

新型コロナウイルスの感染拡大リスクの波が教育現場にも押し寄せている。政府は全国の小中高校などに臨時休校を要請し、高等教育を含めた教育活動が当面の間、滞りかねない。「学校という場に集まらず勉強を続ける方法」として、IT（情報技術）を活用した教育サービス「エドテック」への注目が高まっている。

「中国にいたる中学3年のめいっ子はいま、登校せずに自宅で学校と全く同じカリキュラムで勉強しています」

インターネットを使い中国語や日本語を学ぶ「eラーニング」を展開する「ネットチャイナ」（東京・千代田）の斉紅強社長は、新型コロナウイルスの「震源地」の中国湖北省武漢市から北に約800キロの河北省の出身だ。中国では事実上、街が閉鎖されている武漢市以外でも外出が制限され、故郷に住むための学校でもオンラインによる自宅学習をしているという。

中国全土では、学校だけでなく企業も在宅勤務

■アプリで手軽に ■自分のペースで



「メガスタディ」で学んだ山岸さんはパソコンの内蔵カメラに映る家庭教師と対話しながら英語を勉強した

ネットチャイナは中国人向けの日本語授業で中国のネットサービス大手「テンセント」の教育アプリを使っている



を一旦に始めている。それができるのも、「オンラインで授業やビデオ会議ができるプラットフォームが充実している」といふ土台があるから」（斉さん）。ネットチャイナでも日本人向けの中国語授業は、ビデオ通話の「スカイプ」を使っているが、中国人向けの日本語授業には中国のオンライン教育専用のアプリを利用している。

■ 即座に質問可能

斉さんによると中国のアプリは「回答に反応した生徒を先生があてたり、質問に即座に答えるなど、教室で授業を受けるのと同じサービスを受けられる」。スマートフォン（スマホ）でも使うことが可能で、双方向の対話も簡単だ。

ネットチャイナは現在、日本仕様の教育に特化したプラットフォーム「オンライン・クラスルーム」（仮称）の開発を進める。だが、日本では塾や語学教室が普及していることもあってか、「ネットを使った教育に抵抗感のある人が多い」。同

のリサイクル技術を中国に広めたい」と話す。

■ 対面指導に近く

オンラインでの大学受験専門の家庭教師サービス「メガスタディ」を2017年から行っている「バンザン」（東京・新宿）では、新型コロナウイルスの感染拡大とともに、資料請求の問い合わせが増えている。「感染リスクが一切ないことへの関心が高い」（山田信和ゼネラルマネジャー）

同社のサービスの利用者で昨年、志望大学に現役合格した山岸虹輝さん（19）は「身なりを気にせず、リラックスできるのもよかった」と振り返る。以前に大手の予備校に通っていたが、「講師にあてられて間違えたら恥ずかしい」などと、集団での学習に苦手意識を持っていた。大学受験を心配した母親の勧めで、高校3年の夏からオンライン

「学び止めるな」 在宅学習を支援

政府の要請を受け、全国で臨時休校に踏み切る学校が相次いでいる。ただ、収束時期は依然として見えないため、休校が長引くと「教育活動が事実上、停止しかねない」とデジタルハリウッド大

学大学院の佐藤昌宏教授は懸念する。

佐藤教授は自身が代表理事を務める、エドテックを推進する「教育イノベーション協議会」で、「マナビを止めるな！ プロジェクト」（仮称）を立ち上げた。小中学校や高校の教師が、在宅の生徒にライブ配信で教科書に沿った授業をすることをサポートするもので、動画配信の協力企業や遠隔（編集委員 木村基子）

就活の関連情報はこちらへ 18歳プラス面では就職活動中の大学生の疑問や不安にこたえる記事を掲載しています。関連情報を電子メール nikei148@news.nikkei.co.jpへお寄せください。